

## 第 28 回 総合化会議 議事録

○日時：平成 27 年 5 月 28 日（木）10:00～12:00

○場所：野村総合研究所会議室

○アジェンダ：

- プロジェクトリーダーから挨拶
- 今後 2 年間の計画について
  - (ア) 今後の論点・積み残し課題
  - (イ) 総合化会議の進め方
  - (ウ) テーマ横断会合の実施
- ICA-RUS REPORT 2015 作成について
- 全体討議

○主な決定事項・今後の予定：

### 今後の論点・積み残し課題について

- 各 TL より積み残し課題について報告（テーマ 5 については次回の会議にて報告）。
- 選択肢詳細版の執筆を早めに（今年の 10 月頃）スタートさせるためには、積み残し課題については一定の目途を夏ごろには立てていく必要がある。

### ICA-RUS REPORT 2015 について

- 素案について、各 TL・メンバーにおいても入念にチェックし、6 月 2 日をめどに修正案を事務局に提出する。

### 全体討議

- ICA-RUS REPORT 2016 については、従来ほどの分量のものでなくとも、新しく進捗した部分を中心に紹介すること等を検討する。
- COP21 に際して、メディア等を通じた情報発信を行うときの資料として、ICA-RUS REPORT 2016 を活用するという方法もある。ただし、この場合、スケジューリングをよく検討する必要がある。

### 江守プロジェクトリーダーから挨拶

- 総合化会議は今年度から 2 か月に 1 回の開催となった。今日は久しぶりの総合化会議となる。
- 私からの積み残しリストは、昨年度の全体会合でお示したものとほぼ同じことであるが、確認したい。（資料に基づき説明）
- 選択肢最終版に向けた準備に加えて、今年は COP21 に向けた大事な年。各国の INDC という約束素案が出てきて、各国の分析はなされるだろうが、合計したものの分析が十分かどうか。われわれはそのための道具立てはできているので、われわれなりに分析できるのではないか。
- 温暖化リスクメディアフォーラムを開催したい。10 月頃、報道関係者と意見交換し、われわれの INDC の帰結の分析を出していけたらと思う。詳しくは個別に相談させていただきたい。

## 今後の論点・積み残し課題について

(各テーマリーダーより報告。テーマ 5 については次回とする。)

(主な質疑応答について)

### **【テーマ 2】**

- CO<sub>2</sub>について 88%のコストと書いているのはどのような意味か？  
→  
全てのコストのうち CO<sub>2</sub>に関するものが 9 割近いという意味。
- 資料中に 7.7%と 124.5%と大きく異なるのはなぜか。どのようなケースに対応しているのか？  
→  
標準的な場合には割引率 4%に設定しているが、割引率が 2%のときに 124.5%となる。割引率 6%とすると 7.7%の結果となるという意味であり、現在価値になおすときの割引率の考え方の違いによる。

### **【テーマ 3】**

- 海洋の温暖化影響はモデルで評価されるのか？  
→  
その予定である。他の手もあるかもしれないが、深層水を含めてどのような力学的な変化があるかを考えたい。

### **【テーマ 4】**

- バイオマスのポテンシャルで食糧需給の調整をするということの意味は？  
→  
収率についての設定と転換可能な耕地面積の設定の両方の条件がある。
- バイオマスの輸送のコストは？テーマ 4 で見ていると考えるとよいのか？  
→  
輸送はモデルの中で扱うが、それほど本質的な問題とならない。むしろ消費のほうが結果に影響する。

### **【全般について】**

高橋)

- 資料 3-2 の中で当面の検討課題について、選択肢最終版を今年度は早めに始動するという話はしたが、今年度は ICA-RUS REPORT 2016 を作成せず、選択肢最終版の内容・様式等の検討に注力するということを総括班のほうで検討している。
- 最終版をきちんとつくるために敢えて ICA-RUS REPORT 2016 をはさむことをせずに、今年度は準備の期間に宛ててはどうかという議論をしていた。
- 一方で、一年間で一本レポートを出すという当初の計画に固執すきという意見もあるかと思う。
- また、関連して、提案時に 5 年間の研究計画がある。5 年間の計画の中では修正を加えるべきところは出てくるかと思うが、どの程度修正するかについては相談が必要かと思う。

佐藤)

- 前倒して最終版の検討をするということについて補足させていただきたい。来年度は最終

年度なので、執筆は早めに始めたい。具体的には 10 月から実際の執筆を始めたいと思う。今日報告があった積み残し課題は夏ごろまでにある程度形にできるかどうかというところ。

江守)

- つまり、あと 2 年あると思っていたが、1 年半しか研究期間がない、そういう気持ちでやらないといけない。
- 中身をつくるスケジューリングについてはそのようなかたちで考えていただきたい。基本のご異論なければ、その方針で。

森)

- ICA-RUS REPORT を作らないのは大きなことなので、よく検討したい。IPCC との関連もあり、それでよいのかというところは検討したい。

高橋)

- 従来と同じ分量でなくとも、少なめのものを作成することも考えられると思う。毎年出す必要があるかどうかは環境省にも確認しなければならない。

森)

- SSP のシナリオを今年には出せるかもしれない。今年変化があった分、差分のところは薄くてもよいからレポートとして出しておいてよいかもしれない。

高橋)

- 第一版の補遺、補足版のようなものをベースに出すのもひとつ。

江守)

- COP にむけた追加的な評価を、メディアとコミュニケーションするにはなんらかの資料は必要となるので、その点を今年度のレポートにするという手もある。

佐藤)

- COP を見据えると早めに出すということになる。

江守)

- 英語で COP に間に合うようになると、スケジュール的には急ぐ必要がある。

江守)

- 別の話題となるが、S14 との関係で、トピックに絞るかたちではなく、合同ミーティングして、どのようなことやっているか確認したほうがよいと思った。
- また、テーマ 3 や 1 に関わると思うが、分析ケースから「戦略」に気温変化をもとにして線形内挿しているが、各変数に対して本当にどれだけ線形でよいのかどうかの検討をする時間が今回はなかった。
- また、先日あるところで聞かれたのは、線形内挿するときゼロ点をどこに置いているのか、現在なのか、工業化前なのか、それによって結果は変わるのか。手法の点でつまれそうなどの確認が必要。テクニカルに手法の詰めを最終版までにやったほうがよいと思う。

森)

- SSP の公開可能性や公開時期について情報があれば、紹介いただきたい。

江守)

- 現状では特段の新しい情報はない。
- 先日エキスパートミーティングに行ってきたので、情報共有したい。スケジュールについては以前から言われていたことと同じで、いまレビューをしているところ。これからレビューコメントが来るという予定。

森)

- レビューが来るまでは論文発表はできないということ？

江守)

- それは藤森さんに聞かないと分からない。

森)

- 論文に使うのはまだレビューが終わらないと難しそう。

#### 総合化会議の進め方、テーマ横断会合について

(高橋 TL より発表)

(主な質疑応答について)

- 会合のアナウンスはメンバー全員に通知するということ？  
→ そうしたいと思う。
- コアメンバーについて各テーマから入っていないといけない？  
→ そのような縛りはない。

高橋)

- アドホックな会議の場所の決定と日程調整は幹事の方をお願いすることになるが、予算を計上しているわけではないので、難しい場合は総括班にもご相談いただきたい。
- また、セミナーについて東大の前田氏と相談していて、7月後半に第一回をセットできればと検討している。各テーマからも企画いただきたい。

#### ICA-RUS REPORT 2015 について

高橋)

- 各テーマリーダーだけではなく、各テーマ単位で分担を切り分けられるところもあるので、各テーマ内で細かく見てもらう必要がある。いきなり明日と言うのは大変なので、来週火曜、2日までに意見をもらうようにしてほしい。
- いずれにしても詳細版の内容以上のことは盛り込まない方針なので、火曜まで一度内容チェックいただきたい。

妹尾)

- デザインとの兼ね合いで、本文はなるべく早くフィックスしたい。

江守)

- スペースが余っているところは、文字なのか挿絵なのか、どういうもので埋めるべきかを考えたい。気の利いた研究機関はきれいな写真を入れているが、フレキシビリティがスペース的にないが…。

妹尾)

- 写真等、そもそも素材があるのであればいいのだが、詳細版には写真がそもそもないので、フリーで気の利いたものがあるかは検討する。

高橋)

- 10、11 ページの図表は文字を大きくした版をこちらで作成したので、早めに共有したい。

妹尾)

- 元のグラフデータをもらえれば、印刷イメージを作りながら、必要に応じて差し替えたい。張り込み画像の元データについては、各担当の方に提供お願いすることになると思う。

山形)

- モデル、という言葉がよく書いてあるが、モデルについて、ICA-RUS のものか IPCC のものか、説明が十分でないものがある。例えば、1 ページ目のモデルと言う言葉の使い方は、何のモデルなのか分かりにくい。

高橋)

- 詳細版では、最後にモデルの説明をしていたものを今回は最初に持ってきた。それで、一般論と各論が分かりにくくなっているかもしれないが、よく読めば分かるようにはなっている。

森)

- 一般論と特定モデルの話は、切り分けたほうがいい。1 ページの下から 10 行目のモデルに関する話は必ずしも一般論ではない。

江守)

- 一般論かそうではないかの説明で記述が必要以上に煩雑になるのは避けたい。

森)

- せめて、ICA-RUS の独自の話かそうではないかは、分かりやすくしたほうがいい。前田先生の割引率の手法の個所についても、一般論で語れないことを一般論かのように読めてしまうものがあつた。

高橋)

- 17~19 ページは詳細版にたくさんあつた。図から抜き出して、説明に足るものを使った。WORLD のものを取ってきた。しかし、図の選び方には別のやり方もあるかもしれない。

森)

- 図については凡例のあるものないものが混在している。また、地域別よりも世界合計である必要があるなど、図の選び方について検討が必要なものがある。

妹尾)

- なんとか既定のページ数に収まるようにしたい。そうになると図が小さくなってしまう悩みがあるが、ページ数についてはご留意いただきたい。注意書き等は小さい文字でもいいが、必要なものは加えていきたい。
- 後で現時点版をメールした上で、2日の火曜までに確認・修正いただくよう、ご案内する。図表の元ファイルもあわせて頂戴したい。

森)

- グラフはエクセルの元データを丸ごともらったほうがいいか。共有フォルダに入っているが、探すのが大変。何のデータが必要なのかを指定してもらう必要がある。

妹尾)

- 文章と使うグラフについてフィックスしたうえでデータを依頼したい。

坂下)

- 気温の変化はレポート全体を見ても、6ページ目の説明しかない。もう少し説明の図を入れたほうがよいのではないか。

佐藤)

- 以上で第28回総合化会議を終了する。次回の日程は調整中のため、後日ご連絡する。

以上